

第一庁舎・市民会館の建て替えに関する市民合意の形成について
(追加意見として)

2010年2月12日
市民ネット

1. 市長は1月8日の記者会見で「”市民会館について白紙”は選挙戦術だったと思われるけれども仕方ない」と発言した。市長＝市行政の立場と現職任期中である候補者の立場を使い分けることは、極めてご都合主義的な発言と言わなければならない。市民ネットは兼ねてより「市長の”白紙発言”は、あり方懇話会や建設検討委員会の審議経過と乖離があり過ぎる。行政の長として”建て替え”を堂々と主張し、市民の判断を仰ぐべきである」、「”白紙”と言うならば、検討委員会の審議をはじめすべての検討作業をいったん止めるべきである」と主張してきました。選挙前の候補者としての「ブレ」を「開き直り」で收拾させようとする姿勢は、「みんなの声が長野をつくる」とした市長の基本スタンスとは対極にあることを深く自覚すべきである。市長は12月議会で「おごらず、高ぶらず、謙虚に、誠実に市政に臨む」と述べた。「おごり、不遜」の姿勢を真摯に反省すべきである。
2. 市民グループが行った情報公開請求に対して、市はほとんどをマスキングし「限定的」な情報公開で対応した。「誤解や混乱を防ぐため」としているようであるが、こうした姿勢が行政不信を増幅させる結果になっていることを踏まえ、政策決定過程における透明性の確保という観点から、行政内部での政策審議の公開について、最大限の公開を目標とする明確な基準を設け、真摯で誠実に対応することを求める。
3. 2月に全戸配布された「基本構想案・概要版」は、全戸配布したことを評価するものの、「情報公開が不十分」とする市民の疑問や声にしっかり応えるものとはなっていない。とくに耐震改修の場合とのコスト比較や合併特例債を活用することの是非などについて情報をより開示すべきである。「基本構想案全文」及び「市民意見と長野市の考え方」について、住民自治協議会や区長会の協力を得て、地域の「回覧」に付すことを具体化されたい。「基本構想案」発表後の追加資料についても同様である。
4. 「基本構想案」及び「基本計画案」を策定する段階において、全市的な説明会・意見集約の場を設けるなど市民合意の形成により努めるとともに、修正・補強に柔軟に対応されたい。市民ワークショップは「公募による市民参画」を基本に広く意見集約できる場とされたい。
また、市長は12月議会で「能動的な公聴制度、例えばモニター制度の検討」に言及したが、第一庁舎及び長野市民会館の基本構想案の策定にあたっても、具体化されるよう求める。

以 上